

やっぱりドトールが好き

あまりコーヒー通ではないのだが、セルフ式喫茶店には度々行く。多分、2日に一度は利用していると思う。スタバ、タリーズ、ドトール、ベローチェ、カフェドクリエ、プロント、サンマルクカフェ、上島珈琲、などなど。何しに行くかというと、落ち着いてノートPCを開いてメールや最新ニュースを確認するためだ。スマホでも同じことができるが、いただいたメールに返信するという作業はスマホではなかなか難しい。こうしたセルフ式喫茶店の中でマイフェイバリットセルフ式喫茶店はドトールコーヒーだ。ドトールは高級ブランドのエクセルシオール、星乃珈琲、パンの田島など新業態を開発しているが、ベーシックブランドのドトールコーヒーが一番落ち着く。失礼だが、ファーストブランドのコロラドに関しては業態としての寿命を終えているのだと思う。最近は遅ればせながらWi-Fiも完備し、ますます使い勝手が良くなった。小職はドトールコーヒーを選んで利用するロイヤルカスタマーと言ってもいいだろう。創業者の鳥羽氏とは面識があるくらいの付き合い（確か、2度お会いして1度名刺交換をさせていただいた）だが、「一杯のおいしいコーヒーを通じてやすらぎと活力を与える」というブレない経営理念はとても素晴らしいと思う。とにかく、深煎りした美味しいコーヒーを良い雰囲気の中でいただくという点では、ドトールが一番だ。まあ、ドトールはおやじ用カフェという声も聞くが、これは事実だから仕方がない。これらセルフ式喫茶店のコーヒーの価格（ホットコーヒーのスマートサイズ）を比べると、ドトールが220円であるのに対して、スタバ302円、タリーズ320円、ドトール220円、ベローチェ200円、カフェドクリエ260円、サンマルク216円、プロント260円、上島珈琲360円となる。個人的な考えなのだが、ドトールのブレンドコーヒーSサイズを20%値上げして264円にしても、客の反発は受けないのではないかと思し、300円でも何らの抵抗はない。私自身は値上げしても何らの反発は感じないだろう。ドトールの加盟店の収益がアップすれば今以上に満足を与えてくれるに違いないと思う。ドトールには正々堂々と値上げをして欲しいものである。ちなみに、ドトールのブランドの由来をご存じだろうか。創業者の鳥羽博道

氏がブラジルでコーヒー農園を手伝うために渡伯し、その時の住まいがサンパウロの「ドトール・ビント・フェライス通り」にあったことが店名や社名の由来になっている。

[トップページへ](#)

無断転用を禁止します。